

BRICsものしりコラム

青蔵鉄道(チベット鉄道)の誘惑

中国の辺境は、手つかずの自然とそこに暮らす少数民族のユニークな文化の魅力に満ちています。筆者にとっては、シルクロードの新疆ウイグルと共にチベット(中国語では「西藏」)もその一つで、古くから「天空のシャングリラ(理想郷)」と呼ばれたチベット密教の聖地、「死者の書」が実践される手の届かない憧れの地でもありました。

この「遥かなチベット」が地上の世界と鉄道により結ばれたのは、2006年7月1日に開通した「青蔵鉄道」によります。青蔵鉄道は青海省西寧とチベット自治区の首都ラサを結ぶ鉄道として1958年に着工、まず1984年に西寧-ゴルムド間が開通し、2006年にはゴルムド-ラサ間が開通しました。総延長1,956キロメートルに及ぶ全線が開通するまでに50年近くを要したことから、その難工事振りが想像できようというものです。事実、総延長ではシベリア鉄道に遥かに及びませんが、海拔4,000メートル以上の区間が実に960キロメートルと世界一の高原鉄道で、最高地点はタングラ峠の5,072メートルです。その近くのタングラ駅が海拔5,068メートルと世界最高地点の鉄道駅ですが、日本一のJR小海線野辺山駅が1,345メートル、スイスアルプスのユングフラウ登山鉄道のユングフラウヨッホ駅が3,454メートルであることから、その高さが容易に想像できます。

青蔵鉄道の車内の様子や車窓から見える景色、ラサ市内の様子などは、2007年1月にNHKが「青海チベット鉄道」として放映した他、2007年4月にNHK・BSでも「関口知宏の中国鉄道大紀行」で取り上げられています。果てしなく続く広大な緑の高原や天に向かってそそり立つヒマラヤ山脈、時折見かける珍しい動物の姿、ラサのポタラ宮殿の威容に旅への想いをかき立てられます。

筆者の職場の同僚で在日中国人の若い女性が、2年前の夏、青蔵鉄道の旅行を楽しんできたとのことで旅の思い出を語ってくれましたが、車内の施設が高度計や各車両に酸素吸入設備を備えた想像以上に近代的で衛生的なことや、車窓のこの世とも思えない美しい景色に見とれて乗客が窓に貼りついている姿など、実際にその場に居合わせているような興奮を覚えました。また、鉄道に並行して走る青海・チベットハイウェイで時折、北京や上海のナンバープレートを付けた日本製のランドクルーザーを見かけるようです。手つかずの自然の圧倒的な美しさを前に現実感覚を失いそうになる経験は、筆者も新疆ウイグルの天山山脈で経験しましたが、夢見心地の中で、中国の都会の富裕層がランドクルーザーを駆ってチベットを旅行する現実との余りのギャップには眩暈すら覚えることでしょう。

中国の辺境・秘境の魅力は言葉では語りつくせません。時間の余裕が出来た時に、一度は48時間の青蔵鉄道の旅に出かけてみたいと思っています。

＜関連するファンドに関わる事項＞

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎にリスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては各ファンドの「投資信託説明書(交付目論見書)」を良くご覧下さい。

お客様には投資信託のご購入にあたり、以下の費用をご負担いただきます。

- 申し込み時に直接ご負担いただく費用
 - 申込手数料 上限 3.675%(税込)
- 換金時に直接ご負担いただく費用
 - 信託財産留保額 上限 0.5%
- 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用
 - 信託報酬 上限年 2.1%(税込)
- その他費用の詳細は各々の投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご確認下さい。

*費用の料率につきましては、HSBC 投信が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係る費用はそれぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧下さい。

HSBC 投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 308 号

(社)投資信託協会会員/(社)日本証券投資顧問業協会会員

当資料のお取り扱いにおけるご注意

当資料は、HSBC投信株式会社(以下、当社と言います)が情報提供を行う目的で作成したものであり、特定の投資信託等の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料は法令に基づく開示書類ではありません。当資料の全部又は一部の無断転載を禁じます。当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載された市場の見通し等は作成時点での当社の見解であり、今後予告なしに変更されることがあります。また、当資料に記載された当社の見解等は、将来の市場環境等の変動を示唆するものではありません。